

種蔵の棚田と美しい風景を守るため、参加型プログラムにより 休耕となっている「みょうが畑」を復活させ景観保全に貢献！

体験学習等のイベント内容

・休耕となっている田畑を活用し、地域の名産品である「みょうが」畑のオーナー（R3～）や作業毎に参加者を募集、参加者はみょうが畑での農作業体験等を通じて、栽培を楽しみながら良好な景観の保全に貢献しています。

・飛騨市ふるさと種蔵村「myみょうがプロジェクト」は、みやかわみょうがの師匠（農家）の弟子になり、師匠から栽培方法を教わり、実際に栽培するプロジェクトで、オーナーは、種蔵地区の棚田において、みょうが畑の草取り、間引き、収穫、藁（わら）敷きなど年4回以上の農作業を行います。

・この活動に県内外から年間約80人参加し、中には関東から参加する家族連れもあり、地元農家や参加者同士の交流を深めています。



←大きくてぶっくり
みやかわみょうが



みょうが収穫のレクチャーを受ける参加者（8月）

取組主体の紹介

取組主体である「飛騨市ふるさと種蔵村」は、飛騨市宮川村種蔵の棚田と石積み、周囲に点在する板倉が醸し出す貴重な原風景を後世に引き継ぐことを目的として設立（H30）された架空の村（組織）です。

県内外から種蔵を愛する「村民」を募集（申請により登録）、集落内の草刈りや石垣修繕、棚田での米やみょうがの生産等景観保全活動に支援いただき、貴重な景観資源を保全しています。

イベントに参加するには

「村民」及び活動に興味のある方等を対象に各種景観保全活動への参加を随時募集しています（下記URL参照）。

- ・取組主体等：飛騨市ふるさと種蔵村
- ・問合せ先（TEL等）：「飛騨市ふるさと種蔵村」事務局
（飛騨市宮川振興事務所産業振興係）
TEL: 0577-63-2312

- ・参考URL：<https://www.city.hida.gifu.jp/soshiki/46/6203.html>

写真提供：「ヒダスケ！」（事務局：飛騨市地域振興課）

↓板倉を背景にみょうが畑の草取りの様子（4月）



みょうが畑の藁敷き
（冬支度）の様子
（10月）



東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら

田んぼアート会場で稲作体験

・愛知県／名古屋市港区
・開催時期：5月～12月

葉の色の異なる古代米等を使って田んぼに絵を描く田んぼアートの制作を通して、農家と市民が一緒になって楽しく稲作体験！

体験学習等のイベント内容

・都市化による農地の減少や農家の高齢化・後継者不足が進む中、名古屋市内有数の米どころ名古屋市港区の水田において、市民と農家が協働で農を支える活動を推進し地域の水田を保全し、水田の多面的機能を維持しています。

・体験内容は、葉の色の異なる古代米等を使って田んぼに絵を描く田んぼアート制作を通して、①田植え、②観察会、③稲刈りの各作業を主に手作業で農家の方が指導される方法で共同で行い、④収穫祭では参加者には収穫したお米やお酒が配られます。

・この活動は名古屋市在住・在勤の方を100口（1口当たり5名まで）募集しており、農家と市民が一緒になって名古屋の稲作に触れ、生き物と触れ合い、楽しみながら農についての学びを深めています。



田植えの様子 (R3.5.9)



田植えで人気の田舟乗り (R3.5.9)



稲刈りの様子 (R3.10.10)



稲刈後のコスモス狩り (R3.10.10)

取組主体の紹介

取組主体である「茶屋新田（ちゃやしんでん）田んぼアート実行委員会」（構成員：愛知県、名古屋市、茶屋新田地域資源保全隊※）は、港区南陽地区で、水田との関わりの中で市民と農家が協働で農を支える仕組みを作ことを目的として、田植え、稲刈り等の体験水田の取組を実施しています。

平成23年からは名古屋市初となる「田んぼアート」を制作し、多くの人々に取組を発信しています。

※地域の農地・農業用水等の資源を保全・管理し、農村環境の保全向上の活動を行う地元農家主体に結成された組織です。

イベントに参加するには

名古屋市在住・在勤の方で全4回の日程に連続して参加できる方を対象に、毎年4月1日～4月20日に募集（有料）しています。（下記URL参照）

- ・取組主体：茶屋新田田んぼアート実行委員会
- ・問合せ先（TEL等）：名古屋市緑政土木局 都市農業課
TEL 052-972-4071

・参考URL：
<<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-2-7-7-0-0-0-0-0.html>>

写真提供：名古屋市緑政土木局都市農業課



見頃を迎えた田んぼアート南陽 (R3.7.4 観察会)
「令和3年度：千手観音」
(デザイン：愛知県出身にわぜんきゅう氏)

東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら



水田魚道を活かした環境教育

・愛知県／安城市
・開催時期：6月～9月

水田魚道を設置した水田で子供たちと共に生き物観察を定期的
に実施！

体験学習等のイベント内容

・水田魚道設置及び農家の環境保全型農業の実践の協力により多種多様な魚類が遡上等できるようになった水田を活用し、地元の子供たちが生き物観察を行うことにより、農業や環境の大切さについての理解を醸成しています。

・観察会は、榎前（えのきまえ）地区の子供会を中心に、魚道を通り水田と水路を行き来するドジョウ、フナ類等の生き物をタモ網等で採捕、生き物の種類や大きさ等を記録しもとの水田や水路に戻します。結果は町内会で回覧するなどの広報活動も行っています。

・この活動に町内の子供たちが年間延べ約300名参加、非農家である子供たちの父兄の関心も高く、地区内住民の交流を深めています。



↑観察水田で採捕された魚類の観察

↓採捕されたドジョウの計測



水田魚道観察会の様子（H31）

取組主体の紹介

取組主体である「榎前環境保全会」は、榎前地区の農業者のほか地区内全ての関係団体で構成する多面的機能支払交付金の事業推進母体です。

平成18年に愛知県農業試験場の開発した水田魚道を設置したことを契機に、地元の子供が参加して水田魚道を遡上する魚類等を観察する水田魚道観察会や田植え、稲刈り等の稲作農業体験を定期的の実施しています。

イベントに参加するには

榎前環境保全会に問い合わせただけ
れば、地域の子供たちを対象に夏季に定
期的（週2回程度）に実施している水田
魚道生物観察会に参加（見学）可能です。
（下記問合せ先参照）

- ・取組主体等：榎前環境保全会、榎前町内会、子供会
- ・問合せ先（TEL/FAX）：0566-92-0071 榎前環境保全会



↑水田魚道 ドジョウ等が水田と水路とを行き来

右上写真：遡上調査のため水田側に設置した
定置網

東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら



千枚田オーナーになり農業体験

・三重県／熊野市
・開催時期：4月～2月

年間を通じた農業体験等への参加を通じて、日本一とも言われる丸山千枚田の景観の保全、棚田の多面的機能維持に貢献！

体験学習等のイベント内容

・日本一とも言われる丸山千枚田の景観と400年以上続く貴重な農耕文化を守り、後世に残すことに賛同いただけるオーナーが、農業体験等を通じて、千枚田の景観保全、棚田の多面的機能の維持に貢献しています。

・千枚田オーナーが体験できる農業体験及びイベントは、春先作業から順に、①畔（あぜ）塗り作業、②田植えの集い、③虫おくり（伝統行事）、④案山子（かかし）作り教室、⑤稲刈りの集い、⑥収穫祭、⑦畔（あぜ）そり作業、と盛り沢山で、地域住民組織（丸山千枚田保存会）から手ほどきを受けながら体験、参加者には特典として、新米と地域の特産品等が配布されます。

・この活動は毎年2月から募集、①～⑦の体験を4月～2月まで行います。毎年100組を超える申込みがあり、農作業を通じて地域住民との交流を深めています。

豊作を願う地域の伝統行事
虫おくり（6月第1土曜）→
幻想的な情景の中、千枚田
オーナーも行列に参加



千枚田オーナー 田植えの集い
(5月中旬)



東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら



←千枚田オーナー
稲刈りの集い（9月上旬）
↓



取組主体の紹介

取組主体である「（一財）熊野市ふるさと振興公社」は、丸山千枚田を保全するため、「千枚田を舞台に都市住民との交流を図り、一緒になって千枚田を守っていこうという」趣旨のもと、千枚田の一部を利用して千枚田オーナー制度の運営を行っている組織です。

丸山千枚田7.2haのうちの約1.6haをオーナー用として活用しており、オーナーさんは、昔ながらの手作業による田植えや稲刈りのほか、地域のイベント等にもご参加いただいています。

イベントに参加するには

丸山千枚田を愛し保全活動に理解のある方で、地域住民をはじめとした地域の人々とのふれあいを大切にできる方を対象に、オーナーを募集（有料）しています。（下記URL参照）

- ・取組主体：（一財）熊野市ふるさと振興公社
- ・問合せ先（TEL等）：（一財）熊野市ふるさと振興公社
丸山千枚田担当 TEL 0597-97-0640
- ・参考URL：<https://www.maruyamasenmaida.jp>

写真提供：（一財）熊野市ふるさと振興公社

大学生と連携した農業体験

・三重県／津市
・開催時期：5月～9月

大学生と連携し、休耕田を活用した学生田での田植え、稲刈りなどの農業体験を通じて農業・農村の果たしている役割を学ぶ！

体験学習等のイベント内容

・上ノ村（かみのむら）地区からの呼びかけに応じた地域づくりに興味を持つ三重大学の学生が、米づくりや地区行事への参加を通じて、地域の課題に向き合いつつ農業・農村が果たしている役割を学んでいます。

・体験内容（令和4年）は、地区内の休耕田を活用し、田植え、稲刈り、収穫祭などの農業体験を三重大学の学生とともにを行います。また、お寺の境内において、昔ながらの盆踊りに沖縄のエイサーを新たに取り入れた「上ノ村成願寺（じょうがんじ）盆踊り」（8月下旬）への参加も可能です。

・この活動に参加することにより、取組主体の理念である「田んぼを田んぼとして守る」活動に貢献することができ、参加者と学生そして地区内住民との結びつきが強まります。



↑コロナ前の収穫祭の様子（例年10月）



コロナ前の学生田での学生による稲刈りの様子（例年9月）

取組主体の紹介

取組主体である上ノ村環境保全プロジェクト（以下「KKP」という。）は、上ノ村地区の全世帯と農地への入り作者で構成されるむらづくり推進組織です。

KKPは、「主体が多い地域は楽しい」という思いから、事業ごとに活動チームを作り、地域が一体となった活動を展開しており、三重大学の学生との縁結び事業では、休耕田での米作り、盆踊りの準備等多彩な活動により地区住民との交流を活発化させています。

イベントに参加するには

上ノ村情報局に問い合わせいただければ、学生たちの協力のもと、学生田での田植え、稲刈り、収穫祭等の農業体験や上ノ村成願寺盆踊り等への参加が可能です。（下記問合せ先参照）

- ・取組主体等：上ノ村環境保全プロジェクト
- ・問合せ先：上ノ村情報局HP 「お問い合わせ」フォーム
- ・参考URL：<https://kankooayji.wixsite.com/kaminomura>

コロナ前の
上ノ村成願寺盆踊りの様子→
（例年8月下旬の土曜日）



学生田での学生によるコロナ前の田植えの様子（例年5月）



東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら

写真提供：上ノ村環境保全プロジェクト